

中学年提案

研究主題

「Let's try communication more!」～児童が主体的に取り組む外国語教育の創造～

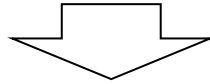
目指す児童像

身近な表現や言葉に慣れ親しみ、自らコミュニケーションを楽しむ子ども

☆3年研究授業 外国語 単元名『Unit5 What do you like?』

3年生児童の実態

- 外国語の歌や、体を動かして表現することを意欲的に取り組んでいる。
- 英語を聞き取ることに難しさを感じ、活動が停滞してしまうことがある。



- ◎英語の歌やゲームなど、楽しんでできる活動内容を工夫していくことで、「英語が話せるようになりたい」という児童の思いを基にした授業づくりを行う。

「児童が主体的に取り組む」ための手立て

(1) 身近な表現や言葉に慣れ親しむ

○外国語に慣れ親しむための導入の工夫

「歌」に身振り手振りを付けながら歌い、楽しみながら身近な表現や言葉に慣れ親しむことができるようにした。また、毎時間のはじめに繰り返すことで、外国語の授業への切り替えが自然と行えるように仕向けていく。

○言葉や表現の掲示の工夫

これまで学習してきた会話のやりとりを掲示し、活動への意欲を高めるとともに、自信のない児童が確認できるようにするための手立てとして活用した。日常生活の中で常に目にする状況をつくることで、自然と繰り返し見たり聞いたりするような環境設定にしていく。

(2) 自らコミュニケーションを楽しむ

○How are you?タイムの工夫

毎時間の始めに、友達同士自分から声を掛け合って、基本的な挨拶のフレーズのやりとりを行う活動を取り入れた。英語の授業の始まりで、気持ちのスイッチを入れ、これまで身に付けてきた単語やフレーズを確認することにもつなげていく。

○質問や応答の仕方の例示

やりとりを通して、質問したり、それに対して応答したりすることで、会話をつなげたり広げたりできるよう、例示し意識付けを行った。応答することで相手の思いや考えを受け止めている「応答のよさ」を実感できるようにした。

○児童にとって必要感のある活動内容の工夫

「外国の人と仲良くなるために」、話題を切り出しやすい互いの「好きな○○」を尋ねることを目的とした活動をゴールに設定した。自然な会話のやり取りの中から行えるように意識した内容を組み立てていく。

本時のポイント

- ・「Who am I? クイズ」に向けて行った、先生方へのインタビューの活動は、児童の主体的な活動を促す上で有効であったか。